

河川空間利用実態調査に関する考察

自然環境グループ
＜現 いであ株式会社＞
研究員　鈴木敏弘

発表の内容

① 河川空間利用実態調査の概要
② 令和6年度の全国河川の利用実態
③ 全国河川の利用実態の経年変化
④ 河川空間利用向上の考察
⑤ 河川空間利用実態調査の今後の課題

①河川空間利用実態調査の概要

✓河川水辺の国勢調査の一環。全国109水系を対象に、原則、同じ年度、同じ調査日（四季を代表する7日間）の現地調査で河川空間利用者数を把握

■目的
✓河川空間の利用実態を把握

■調査対象
✓全国一級水系の国土交通省直轄管理区間
✓109水系122河川単位

■調査方法
✓平成30年度版河川水辺の国勢調査マニュアル（案）河川空間利用実態調査編　に基づき実施

令和6年度の基本の現地調査実施日（7日間）				
1	春	休日1	昭和の日	令和6年4月29日
2		休日2	こどもの日	令和6年5月5日
3		平日	5月第3月曜日	令和6年5月20日
4	夏	休日	7月最終日曜日	令和6年7月28日
5		平日	7月最終日曜日の翌日	令和6年7月29日
6	秋	休日	文化の日	令和6年11月3日
7	冬	休日	成人の日	令和7年1月13日

※一部の水系・河川は天候等の事情により調査日をずらして実施

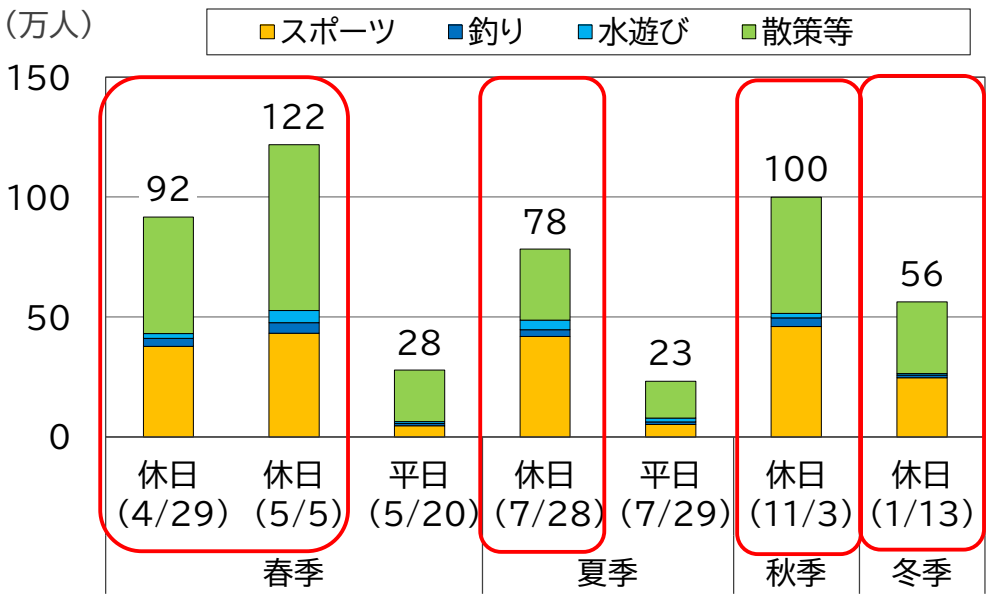
■調査概要
- 代表する定点を設定
- 定点では、日の出から日没まで2時間毎にカウント
- 定点以外では、1日に1回、移動しながらカウント
- 利用者数は、利用場所及び利用形態毎にカウント
- 調査日の曜日、天候、イベントを踏まえ年間利用者数を推計

利用場所	利用形態	具体的活動
水面	水上スポーツ	ウィンドサーフィン、カヌー、ヨット、ジェットスキー、水上スキー等
	水泳・その他	水泳、遊覧船、上記と釣り以外の利用
	釣り	釣り
水際	釣り	釣り
	水遊び・その他	釣り以外の利用
高水敷	スポーツ	ランニング、軽い運動、スポーツ、スポーツの観戦、サイクリング等
	散策・その他	上記以外の利用
堤防	散策・その他	全ての利用

※利用形態は「スポーツ」、「釣り」、「水遊び」、「散策等」の区分で整理

■経年の実施年度 【全国一斉に実施】
✓H3、H4、H5、H9、H12、H15、H18、H21、H26、H1、R6
毎年　概ね3年毎　5年毎

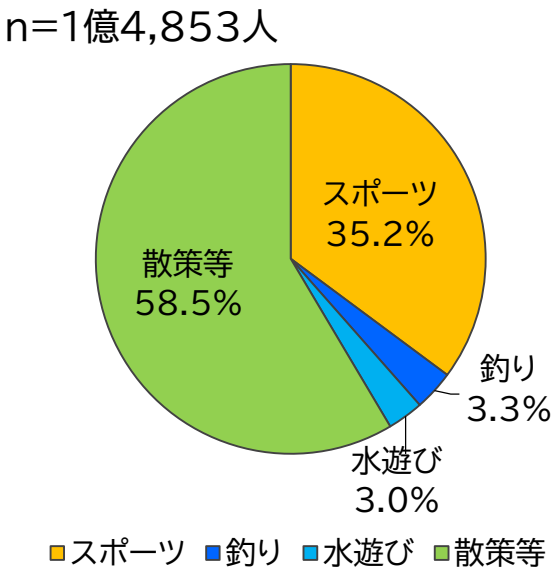
②R6全国河川の利用実態：調査日の利用者数



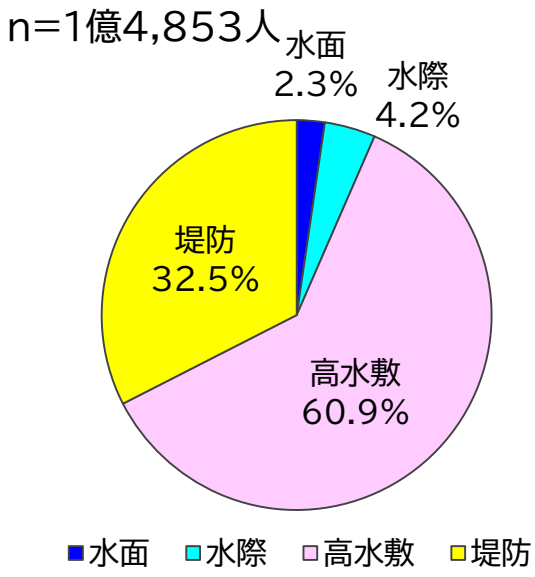
全国河川の調査日の利用者数

②R6全国河川の利用実態：利用形態・場所

✓令和6年度の全国の河川の年間利用者数は、1億4,853万人
✓利用形態別では、散策等の割合が58.5%と高く、次いでスポーツの割合が35.2%
✓利用場所別では、高水敷の割合が60.9%と高く、次いで堤防の割合が32．5%



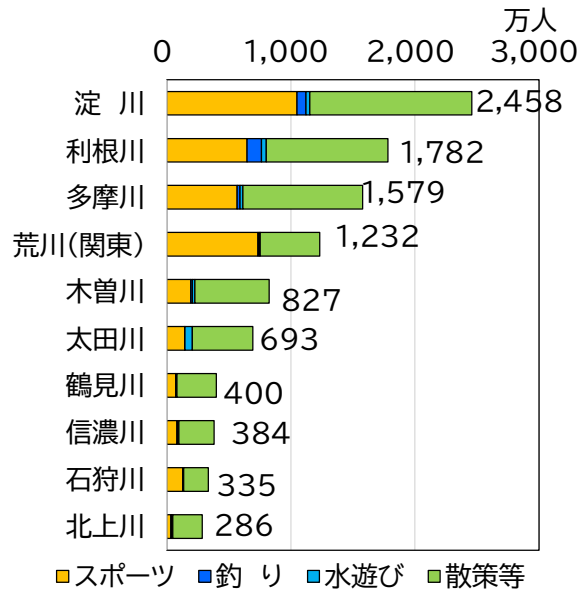
利用形態別の割合



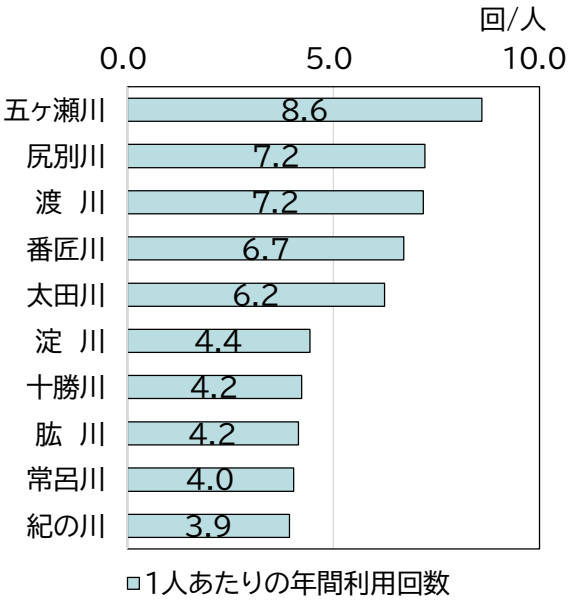
利用場所別の割合

②R6全国河川の利用実態：利用者数が多い水系

✓年間利用者数は、淀川が最も多く、次いで利根川、多摩川、荒川(関東)、木曽川が多い
✓1人あたりの年間利用回数は、五ヶ瀬川が最も多く、次いで、尻別川、渡川、番匠川、太田川が多い



年間利用者数
上位10水系



1人あたりの年間利用回数
上位10水系
※年間利用者数を沿川市町村人口で除した値

②R6全国河川の利用実態：具体的活動

利用場所	利用形態	具体的活動
水面	水上スポーツ	**カヌー**、ジェットスキー、レガッタ、ボート、ラフティング、サップ、ウィンドサーフィン、水上スキー、他
水面、水際	釣り	**アユ釣り**、サクラマス釣り、サケ釣り、ハゼ釣り、ワカサギ釣り、アメマス釣り、イトウ釣り、他
	水遊び	観光船（遊覧船含む）、船下り、水泳、魚つかみ大会、潮干狩り、シジミ採り、白鳥観察、環境学習、他
高水敷	スポーツ	**サッカー、野球、ランニング（ジョギング含む）、サイクリング（自転車含む）、パークゴルフ、ゴルフ、グラウンドゴルフ**、スポーツ観戦、ラグビー、テニス、マレットゴルフ、ゲートボール、バスケットボール、他
高水敷、堤防	散策等	**散歩（ウォーキング、犬の散歩含む）**、キャンプ、バーベキュー、ウォーキング、花火、通勤・通学、祭、観光客、農作業、休憩、ピクニック、花見（桜、コスモス、つつじ）、レクリエーション、マルシェ、自然観察、休息、楽器演奏、芋煮、とんど、カフェ、ラジコン、草スキー、こいのぼり、他

※令和6年度のとりまとめ資料で記載されている具体的活動を整理。並びは記載数が多い順 （**青字**：記載の多い活動）

水面での「水上スポーツ」



球磨川　春のラフティング



釧路川　夏のカヌー



四万十川　夏のカヌーやサップ



川内川　秋のカヌー（レガッタ）

水面や水際での「釣り」

「釣り」で賑わう川

No	地域	河川名	釣りの割合
1	関東	常陸利根川	39.5%
2	九州	小丸川	23.1%
3	北陸	梯川	21.6%
4	関東	久慈川	18.8%
5	東北	子吉川	18.3%
6	中国	吉井川	18.3%
7	東北	米代川	17.7%
8	関東	那珂川	17.5%
9	北陸	小矢部川	13.4%
10	近畿	九頭竜川	12.5%
11	関東	小貝川	12.4%
12	北海道	網走川	12.2%
13	東北	岩木川	11.9%
14	近畿	瀬田川	11.6%
15	北陸	庄川	11.6%
16	四国	物部川	11.5%
17	九州	大野川	10.9%
18	中国	佐波川	10.8%
19	九州	松浦川	10.6%
20	北陸	神通川	10.3%

※令和6年度の「釣り」の年間利用者数が中央値以上の川のうち、
利用形態別割合の値が全国で上位20位の川を整理

【常陸利根川】水際や水面で釣り利用が多い



春の水際での釣り



冬の水面での釣り

水面や水際での「釣り」



梯川　春の水際での釣り



庄川　夏のアユ釣り



吉井川　秋の水際での釣り



網走川　冬のワカサギ釣り

水面や水際での「水遊び」

「水遊び」で賑わう川

No	地域	河川名	水遊びの割合
1	東北	高瀬川	84.8%
2	四国	仁淀川	48.2%
3	中国	高津川	30.3%
4	九州	松浦川	26.7%
5	近畿	円山川	24.9%
6	中部	豊川	20.1%
7	四国	肱川	16.2%
8	近畿	瀬田川	15.5%
9	中国	江の川	14.5%
10	近畿	九頭竜川	12.6%
11	東北	最上川	12.0%
12	北海道	網走川	11.3%
13	九州	番匠川	10.6%
14	九州	球磨川	10.0%
15	中部	菊川	9.9%
16	四国	吉野川	9.5%
17	関東	常陸利根川	9.5%
18	中部	長良川	9.1%
19	中国	太田川	8.4%
20	北海道	釧路川	8.3%

※令和6年度の「水遊び」の年間利用者数が中央値以上の川のうち、利用形態別割合の値が全国で上位20位の川を整理

【高瀬川】小川原湖周辺はキャンプ場等も多く、四季をとおして水遊びを楽しむ観光客等が多い



夏の水際での水遊び



冬の水際での白鳥観察

水面や水際での「水遊び」



豊川　春の潮干狩り



番匠川　夏の水遊び



仁淀川　夏の水遊びやキャンプ



鬼怒川　夏の水遊び

高水敷での「スポーツ」

「スポーツ」で賑わう川

No	地域	河川名	スポーツの割合
1	中部	大井川	64.4%
2	近畿	紀の川	64.1%
3	四国	土器川	63.1%
4	中国	高梁川	62.9%
5	関東	荒川	59.8%
6	近畿	加古川	58.1%
7	関東	烏川・神流川	55.0%
8	関東	富士川	54.8%
9	北海道	十勝川	53.0%
10	九州	大淀川	51.4%
11	中部	鈴鹿川	50.8%
12	中部	安倍川	50.0%
13	近畿	野洲川	49.5%
14	東北	鳴瀬川	48.3%
15	関東	渡良瀬川	47.2%
16	関東	江戸川	46.7%
17	中部	庄内川	46.6%
18	中国	千代川	45.0%
19	近畿	猪名川・藻川	44.6%
20	近畿	淀川本川・桂川	43.5%

※令和6年度の「スポーツ」の年間利用者数が中央値以上の川のうち、利用形態別割合の値が全国で上位20位の川を整理

【大井川】高水敷はサッカー、野球等に広く利用
フルマラソンコースが整備されランニングや
サイクリングの利用が多い



春のサッカー、サッカー観戦



春のランニング、サイクリング

高水敷での「スポーツ」



紀の川　春の野球の試合、観戦



吉野川　夏のパークゴルフ



淀川　秋のマラソン大会



荒川（関東）　冬のサッカー練習

高水敷や堤防での「散策等」

「散策等」で賑わう川

No	地域	河川名	散策等の割合
1	九州	白川	96.1%
2	中部	狩野川 かわまち大賞	93.7%
3	近畿	大和川	89.4%
4	中部	揖斐川	87.0%
5	九州	大分川	86.8%
6	九州	番匠川	84.6%
7	東北	北上川 かわまち大賞	82.7%
8	東北	名取川 かわまち大賞	82.7%
9	中国	斐伊川	82.1%
10	関東	鶴見川	79.4%
11	北陸	阿賀野川	78.0%
12	関東	中川・綾瀬川	77.9%
13	九州	五ヶ瀬川 かわまち大賞	77.6%
14	北陸	信濃川 かわまち大賞	74.1%
15	中部	木曽川本川	74.0%
16	東北	雄物川	73.8%
17	九州	川内川	73.4%
18	東北	阿武隈川	70.9%
19	四国	重信川	70.8%
20	中国	太田川	70.3%

※令和6年度の「散策等」の年間利用者数が中央値以上の川のうち、利用形態別割合の値が全国で上位20位の川を整理

【白川】かわまちづくりや緑の区間等が整備され四季をとおして散策や通勤通学等の利用がみられる



春の緑の区間での散策、犬の散歩



夏のかわまちづくり箇所での散策

高水敷や堤防での「散策等」



石狩川　春の散策（桜の花見）



江戸川　夏の木陰での休憩

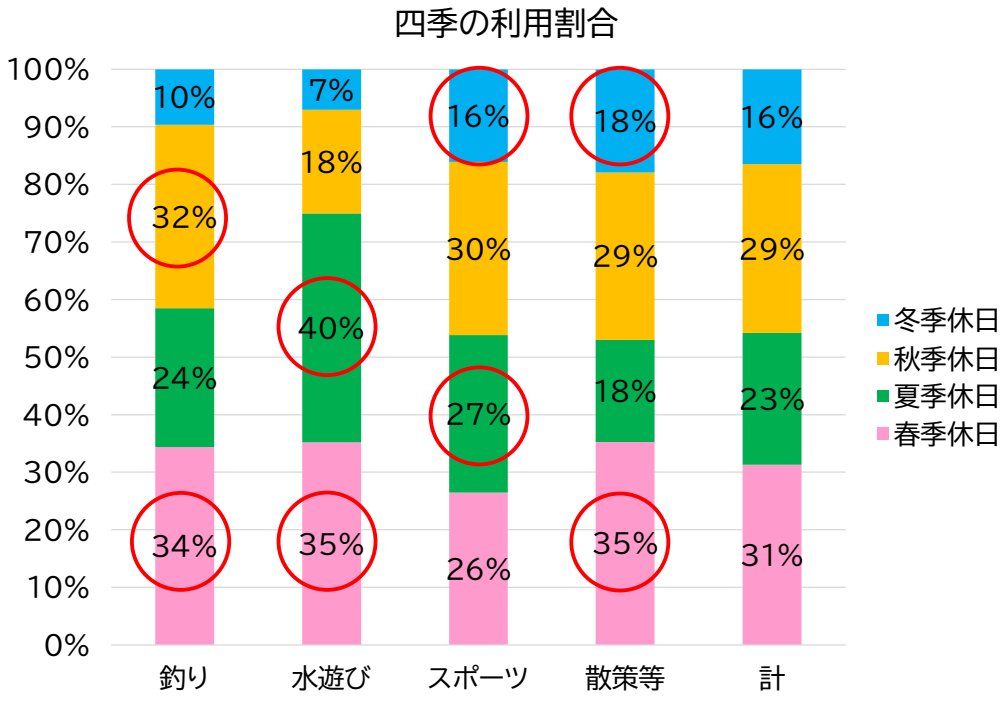


小貝川　秋のコスモスの鑑賞



菊池川　冬の地域住民による“どんどや”

利用形態毎の四季の利用状況



利用形態別の四季の利用者数の割合

※休日の調査日の利用者数を集計（春は休日2日間の平均値を用いて集計）

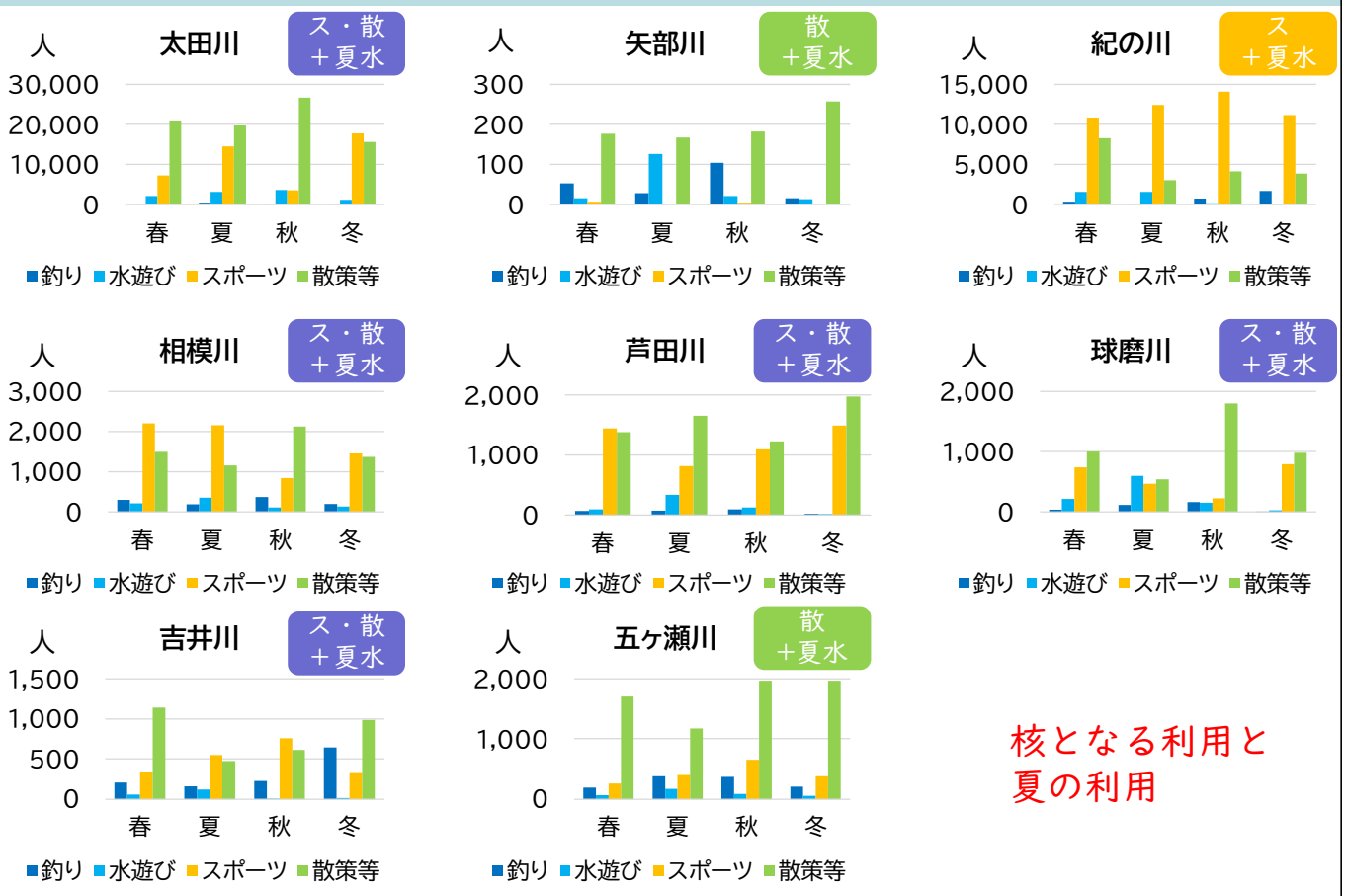
四季を通して利用される河川

令和6年度の四季の利用者数の割合

No	河川	春休日	夏休日	秋休日	冬休日	標準偏差
1	太田川	22%	28%	25%	25%	0.022
2	矢部川	22%	27%	27%	24%	0.026
3	紀の川	28%	23%	26%	23%	0.026
4	相模川	29%	26%	23%	22%	0.032
5	芦田川	25%	24%	21%	29%	0.034
6	球磨川	25%	22%	30%	23%	0.035
7	吉井川	26%	20%	24%	30%	0.042
8	五ヶ瀬川	22%	21%	31%	26%	0.044
9	那賀川	21%	22%	28%	29%	0.044
10	旭川	27%	19%	30%	24%	0.046
-	**全国**	**31%**	**23%**	**29%**	**17%**	**0.063**

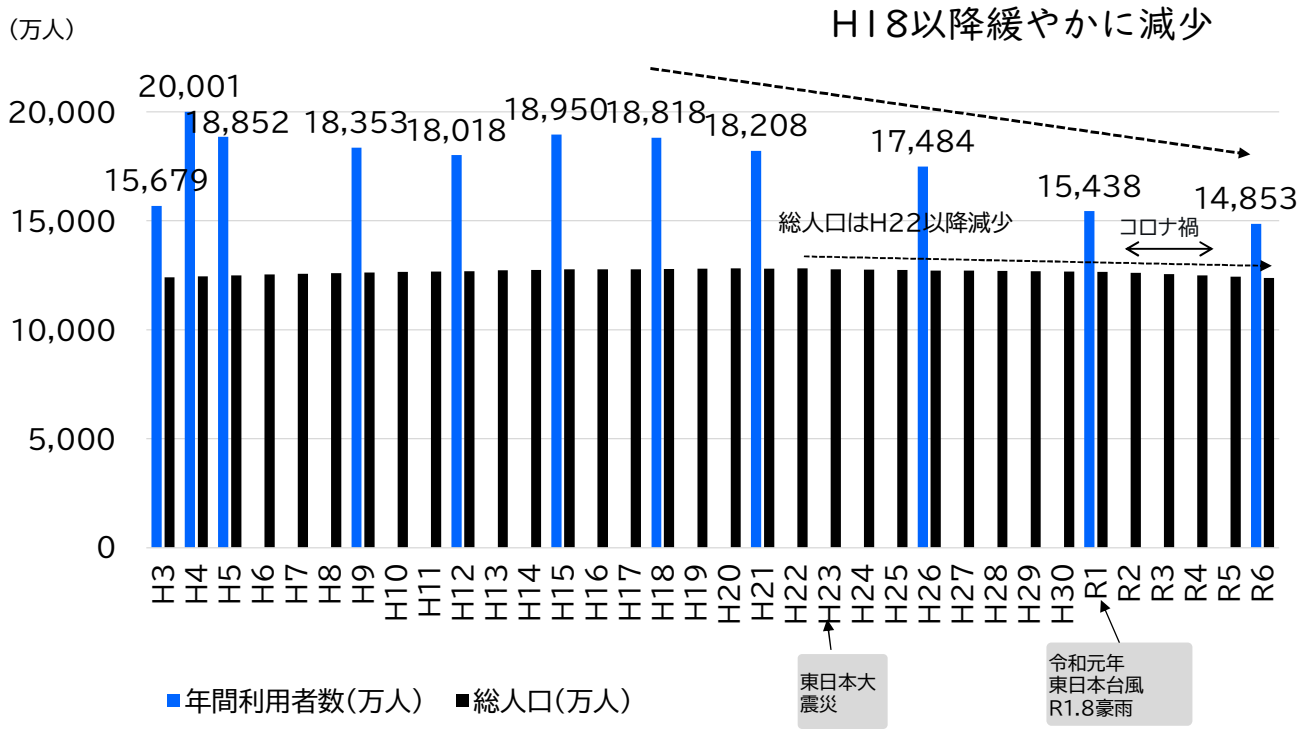
※休日の調査日の利用者数を集計（春は休日2日間の平均値を用いて集計）
※標準偏差が小さい上位10河川を整理

四季を通して利用される河川



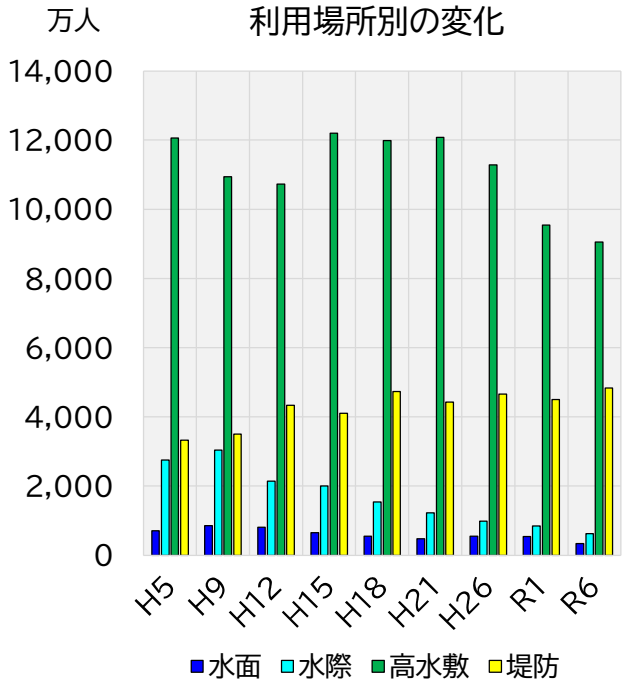
核となる利用と夏の利用

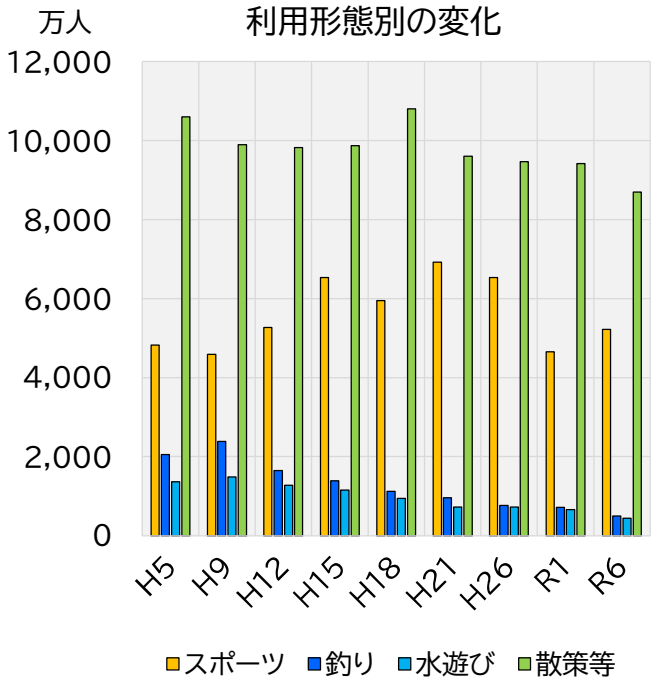
③全国河川の利用実態の経年変化



場所･形態の変化

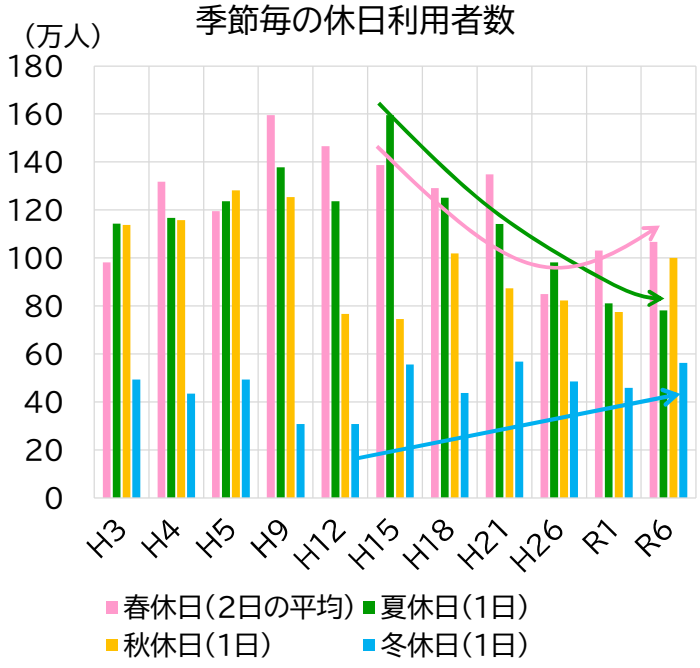
水面・水際での釣り・水遊びの利用から、
高水敷・堤防でのスポーツ・散策等の陸域を中心とした利用に変化

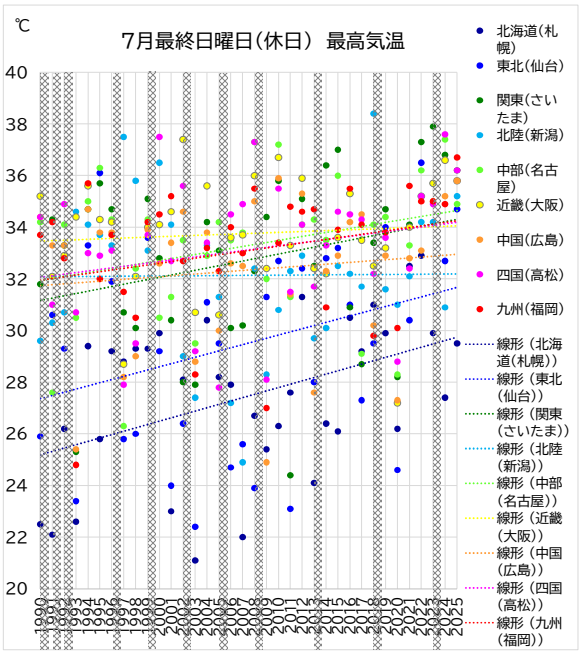




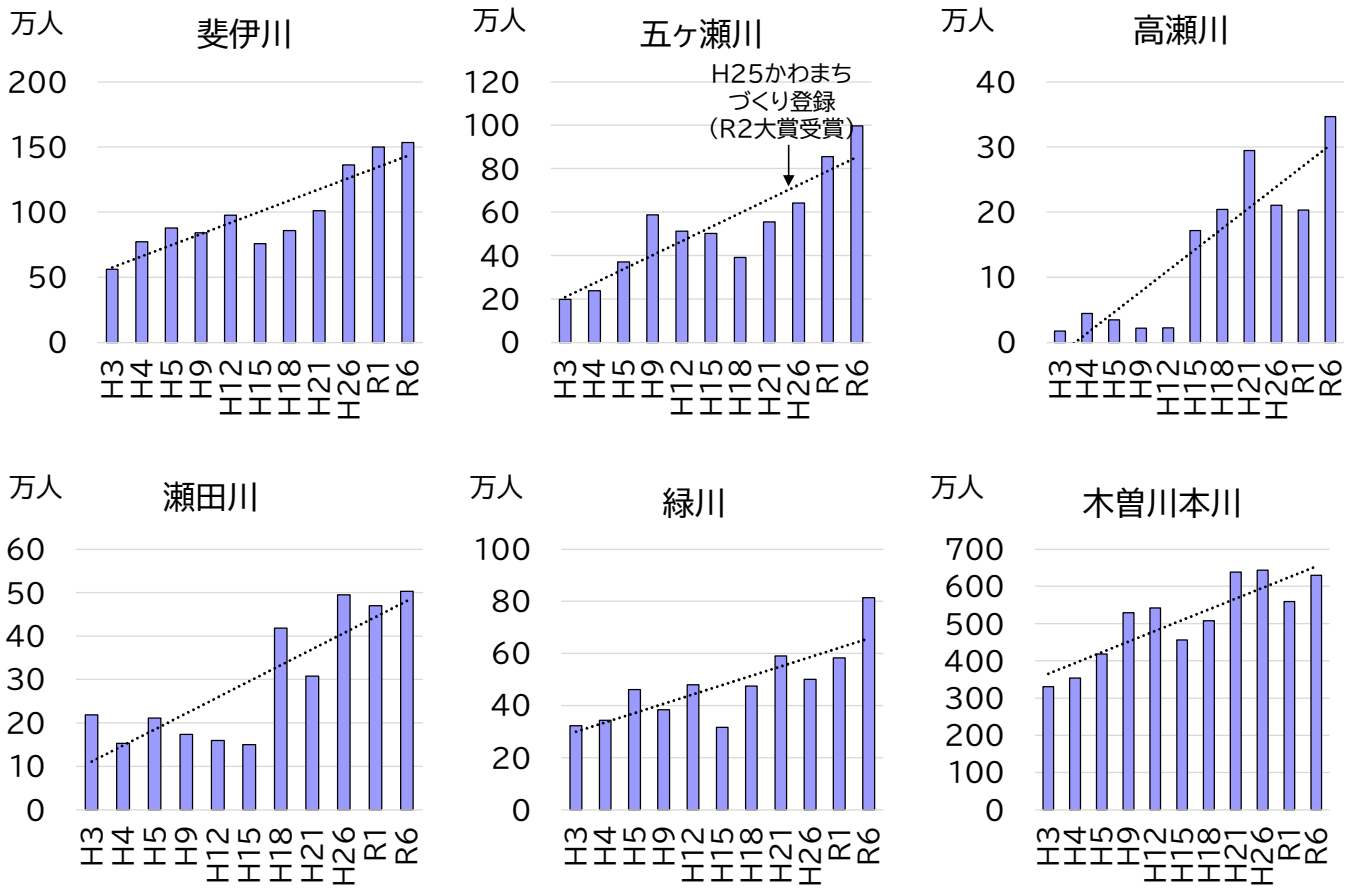
季節の変化

夏を中心とした利用から、
春・秋を中心として春～冬の四季を通した利用に変化
夏の減少は高温化が影響している可能性





約30年間　増加傾向の河川



約30年間　増加傾向の河川　：　斐伊川

✓ 堤防での散策等の利用の割合が高い。宍道湖東端は周辺に旅館、公園、美術館等がみられ、護岸が整備され景観も良いことから散策等の利用が多い









約30年間　増加傾向の河川　：　五ヶ瀬川

✓ かわまちづくり等による河川整備が進み、延岡市街地と隣接する五ヶ瀬川や大瀬川の中下流部において、堤防や高水敷の遊歩道、緑地公園が整備されたことにより、河川空間の利用が促進されている可能性

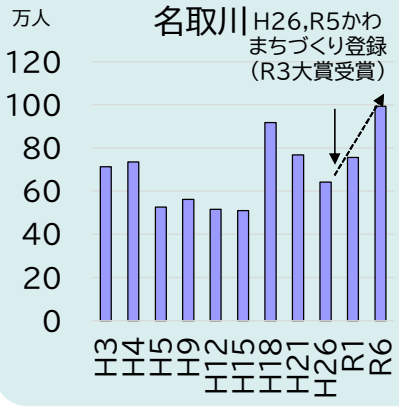








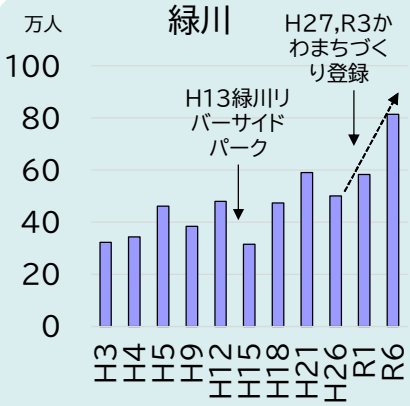
直近10年間　増加傾向の河川







堤防の散策等や高水敷のスポーツの利用者が多い。
“かわまちてらす閖上”が令和元年4月にオープンし、その後知名度が向上したことで、散策等の利用者が増加している可能性







高水敷において散策等やスポーツの利用が多い。
運動公園の“緑川リバーサイドパーク”の整備が進みスポーツや散策等の利用者が増加している可能性

④河川空間利用向上の考察

日常の核となる利用と夏の利用

ポイント①　水面・水際での釣り・水遊びの利用から、
高水敷・堤防でのスポーツ・散策等の陸域を
中心とした利用に変化

⇨ 街と川の空間的つながりを活かした日常利用の促進
・日常の散歩、健康づくり、通勤・通学
・堤防等における日常利用の核となる施設の整備

⇨ 高水敷空間、堤防空間を活かしたスポーツ利用の促進

ポイント②　夏を中心とした利用から、春・秋を中心として春～冬の
四季を通した利用に変化
夏の減少は高温化が影響している可能性

⇨ 川の避暑空間としての資源を活かした「夏」利用の促進
・水辺へのアクセス、水辺環境（淵、平瀬、河原）
・「水辺の涼しさ」、「緑陰」を活かした川づくり

河川空間利用向上のヒント？



⑤河川空間利用実態調査の今後の課題

●調査方法の課題

⇒経年の統計データであるため同じ方法で継続することが重要

- ✓ 高気温、河川水位等の要因を踏まえた調査日設定の考え方の整理
- ✓ 年間利用者数の推計に用いる雨係数・晴係数の妥当性の検証
- ✓ 利用形態毎の具体的活動の更新
- ✓ 「川の通信簿調査」の調査時期の見直し
- ✓ 新技術等を活用した多数の人員を要しない調査方法の検証

●調査結果の河川管理への活用の課題

- ✓ 1kピッチごとのデータ、イベントデータ、写真データ等の活用
- ✓ 質的把握が可能な「川の通信簿調査」活用

おわりに

川は楽しい
日常空間であり特別な空間

